

令和7年度 学校関係者評価報告書

専門学校ファッションカレッジ桜丘は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ（excellent college）を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。

専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価の結果に関して客観性と透明性を高めるとともに、学外の有識者から専門的助言を受け、外部評価を得ることを目的として学校関係者評価を実施しましたので報告致します。

1、実施年月日 令和8年3月31日

実施校 専門学校ファッションカレッジ桜丘

2、学校関係者評価委員

大久保浩美（元埼玉県立高等学校教員）

椎野伝一（有限会社MARUDEN代表取締役 流通総合コンサルタント）

秋山淳（日本専門店協会会員・元ファッション企業在籍・元服飾専門学校校長）

学校関係者

関 太（校長）

岩寄達弥（事務長）

長縄博美（企画部長）

3、評価方法

令和7年度 専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価報告書に対する
学校関係者評価

4、評価項目

- （1）教育理念・目的・人材育成
- （2）学校運営
- （3）教育活動
- （4）学習成果
- （5）学生支援
- （6）教育環境
- （7）学生の募集と受入れ
- （8）財務
- （9）法令等の遵守
- （10）社会貢献・地域貢献

令和7年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。学生数が増えたことにより、以前より経済的に困窮している家庭の学生や不登校を経験した学生、メンタル面に不安を抱える学生などケアが必要な学生が増えた。学生の生活環境やメンタル面の情報収集の為、早期に学生面談を実施することにより学生個々の特性を把握し、退学防止並びに学生満足度を向上させるようきめ細やかに対応した。

基準1. 教育理念・目的・人材育成に関してご意見をお聞かせください。

- *人間教育を進めると同時に、卒業後社会に適応するための最低限の学力を身に付けることも必要ではないだろうか？少なくとも高校卒業程度の知識を持たせないことには、SPI テストを始めとする入社選考をパスすることが困難になるのではないかと？
1年生向けに最低でも国語力、英語力、基本的な数学知識を付けさせるカリキュラムを設けるようにしたらどうか？
- *様々な学生が在籍する中で特にメンタルケアは重要と考えられる。学生数の増加に伴いメンタル面に不安を抱える学生への早期面談の実施は評価できる。退学等の更なる増加を防ぐためにも将来的には程度に応じて心のケア相談の受け皿となるメンタルヘルス専門家を起用も考慮すべきと思う。
- *理念を基に先生方のご尽力が重ねられ、学生さんたちの学習継続があることと拝察いたします。先生方の学生たちに寄り添う姿が学生たちの安心感につながり、学習意欲や向上心を保ち続けるモチベーションになっていると拝察いたします。

基準2. 学校運営

ファッション専門課程の在校生数は前年度より増員することができた。またデジタル専門課程の留学生は過去最高の在籍数となり、教育活動収支単独での黒字化に貢献した。資産運用は前年度に続き米国市場が堅調に推移し、保有金融資産の上昇による運用益により、黒字化を確実なものとした。令和8年度の学生募集はファッション専門課程は前年度を若干下回り、デジタル専門課程は令和8年度より午前午後コースの導入により大幅に学生数を増加することが出来た。総在校生数がさらに増えるため教育事業単独での黒字化継続が視野に入る範囲になった。

基準2. 学校運営に関してご意見をお聞かせください。

- *ここ数年入学志望者は増えており、学生募集という課題には一定の成果が見られよう

に思うが、一方就職実績はやや不明確な印象を覚える。単なる就職率ではなく、学生達が希望する企業に就職できているのだろうか？また、卒業生達の業界への貢献度という点を明らかにするためにも、卒業～就職で終わるのではなく、卒業後の状況も把握するべく仕組みを整備する必要があるのではないかと。ま他そのこと継続的な学生募集の一層の武器になって行くように思うが。

＊教育事業単独での黒字化は永年の課題であったと思うが、近年はその実現と継続が可能となっていることは大いに評価できる。また、学生数の増加に関する施策は学校経営の最重要課題であるので、時代への対応と学生ニーズに適合した適切な施策実施が望まれる。

＊輝かしい学校運営、昔私が在職していたと思うと感無量です。資産運用に依存しない学校運営の継続を祈念いたします。

基準 3. 教育活動

ファッション専門課程ファッションクリエイト科は、昨年同様新入生30名に対して教員2名体制で臨み、2年生も23名に対して2名体制に増員することにより教育指導の充実を図った。1年次後期よりファッションCADスキル、パターンメイキング検定、グラフィックワークなど選択授業を取り入れ学生の学びの意欲に対応できる体制を整えた。選択授業のアイドルプロデュース衣装製作もアイドルメンバーも7名体制となり、作品構成もより充実した内容となった。6周年LIVEや桜丘ファッションショーでの新作衣装お披露目で好評を得た。デジタル専門課程の留学生は、2年生36名、1年生36名と最大の人数となり、2年生に於いては全体的に教育の水準を引き上げることに苦心した。留学生教育では全員に目が行き届く学生数の範囲は20名から25名程度が限界であると推察され、今後のクラス運営の参考となった。

基準 3. 教育活動に関してご意見をお聞かせください。

＊ファッションクリエイト科については、カリキュラムも充実を図れており成果も上げられているようだが、一方ファッションビジネス科の内容については今一つ有効な教育態勢ができていないのではないかと？ビジネス科を経たら、業界でのどのような職種、キャリアにつながるのか？を、より具体的に設定した上で、それらに必要となる知識や経験を学ばせるべきかを当該カリキュラム盛り込むことが肝要だと思う。

一例として、インターン制度のシステム化を提案する。従来のインターンは企業にとっての安価なアルバイト程度の認識でしかなく、学生たちのモチベーションも低く、明確な単位取得のルールもなかったのではないかと？新たなインターン制度として、いくつかの実施概要のポイントを考えてみた。

- ① インターンについては、原則そのインターン先企業への内定を前提とする。
- ② インターン先企業については学生たちの希望を最大限考慮する。
- ③ インターン期間は有期(3か月程度)とし、その間校内での授業はなし。
- ④ インターン期間中は、個人別に定期的(月毎)に企業側から評価表を提出させ、一定レ

ベルの成績取得者は単位を与える。

- ⑤ 企業からの評価に基づき、クラス担任が学生個々に次月への改善テーマとそれを克服する為のアドバイスを与える。

- ⑥ 期間中に特別問題が無く、合格評価の学生は内々定程度の保証を与える。

学生側は就活を前にして、自身の希望する企業で働いてみることで、企業との相性や働く上での実務要件＝今後の勉強の方向性を知ることになる。企業側は入社試験や面接といった短時間では無く、数か月実際の勤務状況を監察することができ、確かな人材の確保が担保できるはずだ。

＊専門学校に於いて専門性の追求と教育環境の充実は必須であり、その面からの教員の増員及び専門教科の深掘は効果的で成果も上げられたと思う。一方のクリエイト科の希望専門職への就職は極めて狭き門であることも踏まえ、これらの面からの学生満足度の向上を得る為の施策にも注力すべきと考える。

＊きめ細かい指導は桜丘の大きな特徴ですので、一人ひとりを大事にし、取り残すことの無い指導方針と実績は高校の進路担当、3学年担任の厚い信頼を得、安心して生徒を桜丘へ送る要因になります。検定の合格率のように可視化できるデータは、これからも高校生、教員、保護者に大きくアピールして頂きたい。留学生教育も併せまして、目が行き届くご指導の継続を願っております。

基準4．学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイト科が受験するパターンメイキング検定3級の1年生の合格率63%と昨年より大幅に悪化している。2年生の3級、2級は全員合格した。学年による学力の差がある。ファッションビジネス科の1年生のファッション販売能力検定3級は合格率79%、昨年68%から改善した。2年生の2級は合格率47%、昨年54%より悪化した。

1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率50%、昨年57%より若干悪化した。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格率は83%、モジュール2は70%と昨年より低下した。産学協同プロジェクトでは、昨年に続きレディースアパレルメーカー株式会社ピーアンドエムと“レディースアパレルのサステイナブルな取り組み”として販売スタッフの制服で使用した商品を回収して、リメイクなどアップサイクルしフリーマーケット等で再販、売上を千代田区経由で寄付を行った。

基準4．学修成果に関してご意見をお聞かせください。

＊各種検定試験の獲得が、就活の成否や就職後の昇格昇進にどう繋がって行くのか？が不明瞭なため、学生にとって受験のモチベーションアップに寄与しないのではないか。

＊専門学校としての専門性を実現するための各種資格取得に関しては、全て100%合格を目指すべきである。学生指導に於いても、その専門性を身に着けることは最重要であることを強く意識づけることも重要である。アパレル企業とのコラボレーションは学生の就職のフィールドをひろげる事にも有効であると考えられる。更なる取り組み

の広がりを期待したい。

＊検定受験は、学生のモチベーションを高め、授業に取り組む意欲向上に繋がることと思います。その年の学生差によって合格率に変動はあると思いますが「次回合格できる力」をつけてあげることが大切であると思います。失敗を恐れずチャレンジする意志の強さを培っていくことが、社会へ出て生きる力になると思います。

「サステナブル」の取り組みは、どの学校でも取り組んでいることと思います。新学習指導要領では、全ての教科にSDGsが関連付けられています。その子供たちが入学してきているので、その理論も組み込んだ質の高いリメイクで社会貢献に繋げてアップデートをしていくことを望みます。

基準 5. 学生支援

現状 1 年生の 59%（昨年 60%）が奨学金や就学支援制度を必要としている。就学支援新制度（学費の給付）に関しては 1 年生の 13 名、30%が支援を受けている。ほぼ昨年同様の人数が就学の支援を必要としている。就学支援制度の認定基準は継続してクリアできる体制が整ったので金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来ている。また、就職支援に関してもオンライン形式の説明会や面接は学校の施設を開放し、個別対応の面接指導、エントリーシート、履歴書添削などをきめ細かく行い活動の支援を行った。就職内定率は、技術科は 83%（昨年 75%）、ファッションクリエイティブ科、ファッションビジネス科は 74%（昨年 74%）、デジタル専門課程の学生は 60%で就労ビザ取得は 5 名となった。

基準 5. 学生支援に関してご意見をお聞かせください。

＊特に優秀な学生には無返還タイプの特別奨学金の設立は難しいのだろうか？

また就職支援では、ある時期での企業説明会の開催だけでなく、年間を通じて企業との接点を持つための、定期的な企業訪問や人事担当者との関係作りが効果的だと思う。

＊学生の本校受験の目的はファッション専門分野の知識・技術を身に付け、ファッション業界への就職を期待しているということは周知の通りである。従って、就職内定率のアップは必須であり、同時に本校の信頼につながることもである。現状での学校支援の維持と更なる推進を期待する。

＊手厚いご支援だと思います。内定率が高いのも先生方の日々のご指導の賜物と拝察いたします。今後、授業料無償で高校生生活を送ってきた生徒が入学してきますので、支援に対する学生、保護者の意識が今までとは違うところもあるかもしれませんが、支援体制は継続されて頂きたいと思います。

基準 6. 教育環境

学科特性上女子学生が多いため衛生環境改善の為、1 号館、2 号館ともにトイレの全面改修を実施した。また、座学の授業に対応するため現状の 2 名使用の長机から一人用の学習机を新たに導入し学習環境の改善に取り組んだ。また、学生数の増加に伴いミシン等の学習機器も一人 1 台を基本として新規購入を行った。

基準 6. 教育環境に関してご意見をお聞かせください。

- *教育環境の改善を着々と実施されることは、学生満足度の向上にもつながり大変結構なことであり評価できる。今後も更なる改善を継続していただけることを期待する。
- *高校教員だった時に生徒たち、保護者には上級学校見学、文化祭見学をするときに、学校（生活）環境について着眼点として、お手洗いを見てくるように話していました。学校側の学生に対しての姿勢が良くわかることと、どのように使われているか（落書きや備品の汚れや破損、掃除の状況）で、学生たちの生活状況、学ぶ環境保全度がわかるからです。美しいお手洗いの維持に期待いたします。小中高の家庭科では、ほとんど針を使わない学習指導要領の変遷があります。若い先生方は、その指導を受けてきた方が増えてきています。そのように、ミシンも授業で使ってきた経験が少なく、指導も受けていない学生たちが多いと思うので、ミシン一人一台で、ミシンの順番を待つこともなく、待たせることもなく、マイペースで丁寧に製作できることは、集中して製作活動が出来、製作意欲の向上に繋がると思います。学生たちの意欲に満ちた姿が目に見えます。

基準 7. 学生の募集と受入れ

ファッション専門課程ファッションクリエイト科はアイドルプロデュース衣装製作のカリキュラムの人気の継続し定員充足。ファッションビジネス科は昨年同様出願者が伸び悩み改善の兆しが見えなかった。デジタル専門課程の1年生は出願者は160名。前年より増加し厳選して入学者を決定することができた。

基準 7. 学生の募集と受入れに関してご意見をお聞かせください。

- *ファッションビジネス科では、学生の受入れ(入口)だけでなく、出口(就職)への戦略が必要なのでは？桜ヶ丘を卒業したら、こういう企業に就職できる、こういう職業に就くことができるといった具体的な道筋を見せることで出願への動機づけにつながる。又卒業生の卒業後の活躍を見せることで、業界への興味を持たせることも可能になるかと。
- *ファッションクリエイト科の定員充足は受験生動員のもととなる、アイドルプロデュースのカリキュラムの導入が奏功し継続人気となったことは施策のヒットととらえられる。ファッションビジネス科については就職内定率を上げることにより、それを全面に出して学生募集の施策の一つに加えたかどうか。
- *ファッションビジネス科は今の時代難しいかもしれませんが、韓国ファッション講座はとても魅力的で、学生たち、高校生たちの意欲が高められると思います。起爆剤になるのではと期待しています。アイドル衣装も魅力的ですが、男性アイドルの衣装も取り組むのはいかがでしょうか。男子学生が参加しやすいのではないかと思います。電子工学部の学生が、某大学の学生さんとアイドル衣装を作る共同作業しているのを聞きました。衣装に電子装置をつけて衣装を光らせたり、点滅させたり、LIVEでは見かける衣装だと思うのですが、人気カリキュラムのアップデートに他の専門学校と

の共同制作もいかがかと思います。SNS の活用も学生募集に貢献していると思います。在校生だけでなく、高校生、保護者が学校の様子を知るツールにもなっていると思います。特に学校生活やトレンドに関しても、保護者が安心して頂けるような内容を続けていただけると、学校に対する信頼度が一層高まることと思います。

基準 8. 財務

教育事業単体での黒字化が達成され、保有金融資産の売買益が最終利益の上乗せとなった。但し、学内環境整備に継続して資金を振り向ける為、一時的なキャッシュアウトや原価償却費が恒常的に上昇する為、更に経費管理を厳格にし、収益を継続的に上げられる体制を整える必要がある。

基準 8. 財務に関してご意見をお聞かせください

- *教育事業単独での黒字化は、従来からの永年の課題であったが継続的な経営努力により、それを実現させたことは立派であるり、素晴らしいこと。
- *教育事業の黒字化で何より安心ですが、そこに留まることなく、お気持ちを引き締める体制に感動しています。

基準 9. 法令等の遵守

継続して、文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。学生に対しては金融機関と連携して金融経済教育を実施し、金融トラブル、カードトラブル、フィッシング詐欺、闇バイトなどに巻き込まれたり、関わらない様に事前に情報提供を行った。

基準 9. 法令等の遵守に関してご意見をお聞かせください。

- *昨今の複雑化した社会に於いては、詐欺やデジタル文化を中心とした犯罪が多発している。お預かりしている学生たちをこれらの犯罪から学べるのが学校の義務であると思う。情報共有はもとより、引き続き施策展開の強化が望まれる。
- *教職員、学生合わせて法令等遵守のご尽力、これからもよろしくお願いいたします。
学生に対しては、飯田橋ラムラ内に東京消費者生活総合センターがあり、視聴覚教材や出前授業なども豊富で充実しています。施設を活用した法令順守教育がしやすい環境だと思います。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

毎年、6 月には千代田区の生活環境の整備に関する条例に基づき、毎年 6 月と 11 月に実施されている千代田区一斉清掃に参加している。学校周辺を清掃することにより、たばこの吸い殻などポイ捨てなど学生のマナーに対する意識付けに役立てるとともに、当日をドレスコード登校日に指定して、スクールカラーのピンクの服装で清掃活動を行うことで近隣住民や通勤、通学で区内を訪れる方々に環境美化に対する啓発活動を行っている。また、産学協同プロジェクトでご協力いただいているレディスアパレルメーカー株式会ピーアンドエムと“レディスアパレルのサスティナブルな取り組み”として制服をリメイクなどアップサ

イクルしフリーマーケット等で再販、売上を千代田区経由で寄付を行った。

基準10. 社会貢献・地域貢献に関してご意見をお聞かせください。

＊地域の祭礼への参加や、町会活動への協力など多角的なボランティア活動はできないだろうか？又文化祭的な行事を開催し、地域住民とのコミュニケーションを活性化することも重要な事かと。

＊社会貢献・地域貢献はステークホルダーの円滑なコミュニケーションを図る上からも欠かせないことである。その行動は学生たちのボランティア精神の醸成にもつながることであるので桜丘学園の伝統として引き続き継続実施して欲しい。

＊地域・社会貢献はとても大事で、地域の学校理解にも繋がると思います。浅草橋では、お祭り等のイベント行事に、近隣の専門学校（語学）の学生さん達が数時間ですがお手伝いをしています。町会でも、あたたかく学生さん達を見守れています。社会貢献についても、民族衣装展も行われることもありますので、民族衣装の学びにも役立つと思います。また、私が関わっております「福島オーガニックコットンプロジェクト」では布の原料でもあります「綿」栽培の援農で、他県の学生さん達が参加されています。COTTONを栽培して、糸に紡ぎ、織る、という体験ができ、社会貢献とともに「服育」の学びができるカリキュラムもあります。リメイクは、衣服の成り立ち、縫製などを知る機会にもなりますし、何に形を変えるにも、同情ではなく、価値ある物として対価を支払ってもらえるアップサイクルが、知識と技術の向上としても大事なことと思われま